

体育科学習指導案

令和4年12月6日(火) 第3校時 第1学年1組(体育館) 指導者

【単元】 ボール蹴りゲーム (E ゲーム)

考察	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
育成を目指す資質能力	<ul style="list-style-type: none"> ボール蹴りゲームの行い方についての知識や, 守りがいない場所をねらってボールを蹴る, ボールを操作できる位置に動いてボールを捕る技能 	<ul style="list-style-type: none"> ボール蹴りゲームにおける運動の課題の解決策を見付ける力, 友達のよい動きを見付ける力, 考えたことを伝える力 	<ul style="list-style-type: none"> ボール蹴りゲームに進んで取り組むとともに, 誰とでも仲よく運動をしたり, 勝敗を受け入れたりする態度
子どもの実態	<ul style="list-style-type: none"> ボールゲームで, ボールをねらって投げたり, 転がしたりすることができる。 ボールをねらって蹴ること, 攻めと守りを交代しながらボールゲームを行うことは未習である。 	<ul style="list-style-type: none"> ボールころころゲームやボール投げゲームにおいて, 守りがいてシュートが打てないといった課題の解決策を見付けることができる。 ベースボール型ゲームに発展するボールゲームにおける, ねらう場所や得点の仕方といった課題について考えたことがない。 	<ul style="list-style-type: none"> 順番やきまりを守り, 進んで運動に取り組むことができる。 新しく提示したゲームの行い方が分からなかったり, 仲間とうまく関われなかったりした際に, 意欲的に取り組めないことがある。
価値	<ul style="list-style-type: none"> ボール蹴りゲームは, ねらったところにボールを蹴ることや転がってくるボールを捕れたことに喜びを感じることができる。また, 守りがいないところをねらって蹴ることによって, コーンを折り返して走る時間を確保し, 守りがアウトを宣言するまでに, 得点することに面白さや楽しさがある。単元の前半は, 折り返すコーンを1つ置き, 守りがボール捕球後, ホームベースよりのアウトゾーンに2人で集まってアウトを宣言するというボール蹴りゲームを行う。状況判断が容易なため, 誰もが守りがアウトを宣言する前に, 全力でコーンを折り返して得点をするという面白さを味わうことができる。単元の後半は, 折り返すコーンを3つ置き, 折り返すコーンの距離によってたくさん得点が入るといったボール蹴りゲームを行う。そのため, 飛球方向と走る時間との関係から, 自分が折り返すコーンを選択するというボールを持たない動きを経験することができる。これらのことから, 飛球方向によって異なる, ボールを捕ってからアウトを宣言するまでの時間によって, 進塁して得点するというベースボール型ゲームの特性に着目しながら, ボール蹴りゲームの楽しさや喜びを味わうことができる。 ボールを転がしたり投げたりすることに比べ, ボールを蹴ることは技能的に難しい。そこで, ボールを蹴る際に, 誰にも邪魔されることがないという状況を設定することにより, 守りがいない場所をねらってボールを蹴る技能を身に付けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ベースボール型ゲームに発展するボールゲームにおける, ねらう場所や得点の仕方といった課題の解決策を見付けるには, 同じチームの観察者の状況判断が欠かせない。そのため, 必要感をもって攻め方について話し合うことになり, ボール蹴りゲームの課題の解決策について考えたことを友達に伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ベースボール型ゲームに発展するボールゲームの行い方の絵図の提示やチーム編制を技能差や人間関係等を考慮して行うことにより, 迷うことなくゲームを行ったり, 仲間と仲よく関わったりすることができる。意欲的にボール蹴りゲームに取り組むことができる。
見方・考え方	<p>ボール蹴りゲームにおけるねらって蹴る動き, ボールが転がってくるコースに入る動きに着目し, プレーしたりプレーを見て考えたことを伝えたり, 目標とする動きから動きのポイントを見いだしたりする。</p>		
今後の学習	<p>3年「ならびっこベースボール」で, ボールをフェアグラウンド内に打ったり, ベースに向かって全力で走り, 駆け抜けたりしながら攻防する学習へと発展していく。</p>		

指導と評価の計画

目標	みんなで励まし合い、動きのポイントを見付けて、ボールをねらって蹴ったり、ボールを操作できる位置に動いてボールを捕ったりしてボール蹴りゲームを楽しむことができる。			
評価 規準	(①知・技) 守りがいない場所をねらってボールを蹴ったり、ボールを操作できる位置に動いてボールを捕ったりするボール蹴りゲームの行い方を知り、その動きができる。 (②思・判・表) 守りがいない場所をねらってボールを蹴ったり、ボールを操作できる位置に動いてボールを捕ったりする動きのポイントを見付けたり、友達のよい動きを見付けたり、課題の解決のために考えたことを伝えたりしている。 (③主体的態度) 規則を守り、勝敗を素直に認めながら、誰とも仲よくボール蹴りゲームに進んで取り組もうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
つか む	1	○試しのボール蹴りゲームを行い、共通のめあてを立てる。 共通のめあて ねらって強く蹴る動きのポイントを見付けて、たくさん得点して、ボール蹴りゲームを楽しもう	○ボール蹴りゲームの中で取り組んでいく動きや学び方の見通しがもてるよう、「ボール蹴りゲームの楽しさ」「できるようになりたいこと」の視点を提示する。	◇試しのボール蹴りゲームに取り組んで得た感想を基に、視点に沿った内容を発言している。 <発言③>
追 究 す る	1	○強くボールを蹴る動きのポイントを見付けて、ゲームを行う。	○ボールを強く蹴る動きのポイントに気付けるように目標とする動きと「足の出し方」という視点を提示する。	◇蹴る足と反対の足をボールの横に置いてボールを蹴るという蹴る動きのポイントを記述している。 <学習プリント②>
	1	○ねらってボールを蹴る動きのポイントを見付けて、ゲームを行う。	○ボールを強く蹴る動きのポイントに気付けるように目標とする動きと「蹴らない足の向き」という視点を提示する。	◇軸足の足先をねらう方向に向けるといったねらってボールを蹴る動きのポイントを記述している。 <学習プリント②>
	1	○コートはどこをねらうかについて考え、ゲームを行う。 (本時)	○守りがいない場所をねらってボールを蹴る動きのできばえを自覚できるように、教師が撮影した動画を基に、動きを評価・判断する機会を設定する。	◇守りがいない場所に軸足の足先を向けている。 <行動①>
	1	○蹴ったボールの方向に応じて得点する動きのポイントを見付けて、ゲームを行う	○蹴ったボールの方向に応じて、得点するコーンを選択の妥当性を判断できるように、蹴ったボールの方向によって得点するコーンを選ぶ機会を十分確保する。	◇観察者の時に、蹴ったボールの方向に応じて、走者にたくさん得点できるコーンの位置を伝えている。 <発言①>
ま と め る	1	○ボール蹴りゲーム大会を行い、互いの頑張りを認め合って学習のまとめをする。	○学習の成果を実感できるように「できるようになった動き」「自分や友達の頑張り」「ボール蹴りゲームの楽しさ」という振り返りの視点を提示する。	◇ボール蹴りゲームの楽しさや喜びとその理由をできるようになったことや自分や友達の頑張りといった観点で記述している。 <学習プリント③>

本時の学習（4／6時間目）

ねらい コートのどこをねらって蹴ればよいかという課題を解決するために考えた解決策を基に、繰り返し練習する活動を通して、守りがいない場所に軸足を向けて、ボールを蹴っている。

評価項目 守りがいない場所に軸足の足先を向けている。

<行動①>

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <p>・私が蹴ったボールはすぐに守りに取られてしまって、たくさん得点を取ることができなかったな。どこをねらって蹴ればよいのだろう。 (課題意識)</p> <p>めあて：コートのどこをねらって蹴ればよいのだろう</p>	<p>○前時の課題となっていた姿から本時の課題を見いだせるように、前時に撮影した守りがいるところに蹴ってしまい、得点を取る前にアウトが宣言されてしまう動画を提示し、課題になることを問いかける。</p> <p>○コートはどこをねらって蹴ればよいかという課題を解決するという見通しをもてるように、本時でできるようになりたいことを問いかける。</p>
<p>2 守りがいない場所をねらうという動きのポイントを見付ける。</p> <p>・守りがいるところに蹴ってしまうと、すぐに取られてしまうのだな。守りがいないところをねらって蹴ると、走れる時間が長くなるのだな。</p> <p>・守りは、蹴る人によって場所を変えているな。そうすると、守りがいない場所も変わるから、よくねらわないといけないな。</p> <p>3 メインゲームを行う。</p> <p>・動画を観たら、守りがいる場所に蹴らない足を向けていることが分かったよ。次は、守りの位置を見て、いないところに足を向けよう。</p> <p>・仲間が、コートの端が空いていると教えてくれたよ。そこをねらって蹴ってみよう。</p> <p>・ねらう場所を考えずに蹴るより、守りがいない場所をねらって蹴った方が、たくさん得点を取ることができね。</p> <p>・守りがいないところをねらって蹴ったら、走れる時間が長くなって、たくさん得点を取ることができたぞ。始めからねらう方向を向かない方がよいことも分かったよ。 (課題を解決した意識)</p> <p>・守りがいないところを見つけて、蹴ることができるようになったよ。</p> <p>4 本時の学習の振り返りをする。</p> <p>・守りがいないところに蹴ったら、たくさん得点を取ることができて、ボール蹴りゲームが楽しかったよ。</p>	<p>○守りがいない場所をねらって蹴るというポイントに気付けるように、目標とする動きの動画を視聴する際に「ボールが飛んだ場所」と「守りの位置」という視点を提示し、動画上の守りの位置に印を付ける。</p> <p>○守る位置によって、ねらう場所が異なることに気付けるように、コートに守りを配置し、守る位置を変えながら、その都度ねらう場所を問いかける。</p> <p>○ねらった場所の妥当性を判断できるように、教師が撮影した動画の守りの位置と軸足の向きを問いかけ、守りがいない場所をねらって蹴るという動きのポイントに照らして、評価するように促す。</p> <p>○ボールを蹴る子どもが守りがいない場所を見付けられるように、チーム内で、観察する役割の子どもが、蹴る場所について気付いたことを伝えるよう促す。</p> <p>○守りがいない場所をねらって蹴り、得点をたくさん取ることができるとに気付けるように、守りがいない場所に蹴った場合とそうでない場合の得点の入り方の違いを問いかける。</p> <p>○守りがいない場所をねらって蹴る動きの高まりを自覚できるように、守りがいない場所に体を向けたり、守りがいない場所に蹴ったりしている子どもを称賛する。</p> <p>○本時の学習の成果とボール蹴りゲームの楽しさや喜びが繋がっていることに気付けるように、「楽しかったこととその理由」を問いかける。</p>